

令和 7 年度第 2 回大口町下水道事業経営審議会 議事要旨

日時 令和 8 年 1 月 2 1 日（水）

午後 1 時 3 0 分から午後 3 時 0 0 分

場所 大口町役場 3 階第 5 委員会室

1 会長あいさつ

2 議事要旨

(1) ウォーター P P P について

（事務局）資料説明

（委員）WPPP に参加する業者は主にどのような業種か？

（事務局）コンサルタント等下水道の維持管理に知見のある業者が多い。

(2) 下水道施設の現状について

（事務局）資料説明

（委員）業者が寡占状態にならないか？有収率が悪いことが業者選定のネックにならないか？

（事務局）大口町の場合有収率が悪いということは逆の見方をすれば改築対象管渠が多いとなる。

（委員）有収率は管種に依存するのか？

（事務局）陶管・ハイセラミック管は焼き物であり、強度が他の管種と比較して弱いためひび割れが発生しやすく浸入水の原因となりやすい。また、定尺が塩ビ管は 4.0m だが、陶管は 1.5m、2.0m のため必然的に接続箇所も増え浸入水増加の原因となり得る。周辺市町と比較しても下水道整備が早く陶管の比率が多いと思われる市町ほど有収率は悪い傾向にある。

（委員）有収率の向上は下水道事業の優先課題の一つで、少なくとも全国平均の 80%は達成すべきだと考える。

(3) 管渠の改築について

(事務局) 資料説明

(委員) 石川県の震災では他のインフラに比べて下水道の復旧は遅れていると聞く。管渠の改築計画を立てるのはいいが、将来の大口町の人口を算出し、下水道事業を縮小することも検討が必要だと思う。また埼玉での下水道事故ではヒューム管が硫化水素で破損したことが原因となった。大口町にもヒューム管が使用されているということなので早急な対策を望む。

(事務局) ヒューム管については点検を行い異状は無かった。コンパクトシティという考え方があり、地区ごとでの集合処理や周辺の宅地では個別処理に切り替えるようなことの将来的には検討の必要がある。費用対効果で管渠更新よりも個別浄化槽が有利であれば公で浄化槽設置もすべきかもしれない。ただ、現段階では既存の下水道を維持管理していくことを第一としている。

(委員) 国の補助金はいつまで続くか不明とのことだが、見通しもないのか？

(事務局) 見通しもない。ただ令和 9 年度から国の補助金に W P P P が必須となることから W P P P を実施していれば数年は補助金も出ると想定される。もらえるうちに改築を進める方がよい。

3 その他

次回の大口町下水道経営審議会は、6 月頃を予定。

下水道使用料の改訂について諮問を受け審議する。

以 上